

開業前二ヶ月間の記録

くダイナミクスにして良かったと言えるためにく

※中島敏雄

私は平成十五年に兵庫県で新規開業数しました。電子カルテの設定を始めとして未経験の事ばかりで戸惑う事が多かったのですが、その経験を後に続く方のために記したいと思います。ダイナミクスの使い方ではなく、職員の採用から始まって診療所開業をするための心構え、開院日までにすべき最低限必要な準備について説明させていただきます。

※なかじま としお 兵庫県出身 慶應義塾大学医学部卒業。日本赤十字社和歌山医療センター勤務を経て平成十五年 中島クリニックを西宮市で開業

私がダイナミクスを知ったのは、開業半年くらい前です。当時はまだ病院勤務を続けており帰宅が夜遅く、開業準備は夜中にインターネットで情報収集する程度しかできませんでした。勤務していた病院には電子カルテがすでに導入されていました。しかし、病院の電子カルテは診療に必要なボタンは小さく、使い勝手が悪く、電子カルテ入力のために大切な診療時間の多くを費やさざるを得ない状況でした。ユーザーである医師の声が反映されない、業者開発の電子カルテでの限界を感じておりました。

そんな時に、偶然インターネットで知ったのが「医師自らが開発した電子カルテ」の存在でした。開業にあたり、自院で使う電子カルテを探すためにインターネットで「電子カルテ・クリニック」で検索したところ故松岡正己先生のホームページが見つかりました。松岡先生のホームページには電子カルテの導入、導入前後の試行錯誤の様子がありのままに逐一つづられています。大手業者製電子カルテの宣伝には良いことばかりが書かれていますが、松岡診療所のホームページは一ユーザーの正直なコメントが連ねられています。良いことも書いてあります。この正直なコメントこそ開業前の電子カルテ選びをしていた私にとって宝物でした。松岡先生が使用している電子カルテは医師が開発したものであり、業者が開発したものではありません。「この電子カルテは求めている電子カルテではないか」と直感いたしました。特に他電子カルテと比較する

ことなくダイナミクスにすぐに決めました。

開業準備は万端に

——自動車とは違う、電子カルテは買ったその日から直ぐには使えない——

自動車などでしたら、納車されたその日からマニュアルを読まずにドライブに出かけることができます。しかし電子カルテはそういう訳にはいきません。最低限の準備はしておかないと運用はできません。私が行った最低限の準備について、開業の二ヶ月前からカウントダウンする形で説明させて頂きます。是非、皆様のご参考にしてください。

ダイナミクスのメーリングリストなどでは、保険算定で迷った時はダイナミクスが正しいとか、ダイナミクスのおかげで診療がトラブルなく行えていますなど、甘い賛辞ばかりが目立ちます。これらの賛辞は「やはり正しい」と今は言えます。しかし、これは開業後、電子カルテのシステムを安定して、大過なく使いこなせるようになった後に言える話なのです。それなりの準備をしてダイナミクスを運用する事により初めてこれらの賛辞が正しかった事が実感されます。

開業二ヶ月前

ダイナミクス試用版を目立ソフテックから取り寄せました。この試用版を早速パソコンにインストールしましたが、使い方が全く分かりません。患者登録画面、診療画面、所見入力画面とそれぞれ非常にボタンが多く雑然としています。数えてみますと百四十個ものボタンが一画面にあります。その数にまず圧倒されてしまいます。実際には使うボタンは限られていますので、ボタンが多くても邪魔にはならないことは後でわかりました。

まだこの頃は保険診療制度の知識が乏しく、「社保」「国保」の存在も知らない状態でした。ダイナミクスのマニュアルを読んでも、保険制度の知識の不足から、使い方が十分に理解出来ないと言うのがこの時期の正直な感想です。焦る気持ちがつのりますが「やはり心して準備しよう」と思う時期です。

開業一ヶ月半前

ダイナミクスのマニュアルを読んで使い方をマスターするべく電子カルテと格闘するのですが、

たいして成果が出ないまま一ヶ月半前になってしまいました。診療所の内装も完成、医療機器が次々に搬入されてきます。電子カルテ用にパソコンも購入、本裕的にセットアップを始めました。

ダイナミクスを導入するに当たっては、初期設定をシステムサポート業者さんに頼むか、自分自身であるかが重要な点になります。マイクロソフトアクセスが動くパソコンがあればダイナミクスが動きます。電子メールやワードなどのワープロソフトを使う程度の知識がある方であれば、一台のパソコンにダイナミクスをインストールして設定する事自身はそれほど難しい事ではありません。しかし、実際の診療では一台のパソコンだけを扱うわけではなく、複数のパソコンでダイナミクスを運用します。電子カルテデータ管理するサーバーパソコンと各「受付」「診察室」「処置室」に置いたパソコンをLANを介して接続します。セキュリティ、ウイルス対策を含め設定する必要があります。LANの設定はかなり専門的な知識を必要とします。開業までに時間がありパソコンのスキルに自信のある方は自分でセットアップ、その他の方は業者に頼まれた方が良いのではないかと思います。

写真は私のクリニックの様子です。パソコンが受付スタッフ用に二台、診察室に二台、計四台をネットワークで接続して使っています。電子カルテに使うパソコン以外にも内視鏡画像ファイリング用パソコン、エコー画像ファイリング用パソコンなどが必要となり、診察室のデスクの下には四

開業前二ヶ月間の記録



台のパソコンが並んでいます。足下にケーブルが蛸足状に散乱している写真は当院受付デスクの下です。開業前に想定していた以上にパソコンの台数が増え、それに伴いLANケーブルなどの配線が増えてしまったのが理由です。これから開業を考える方は院内の内装設計の段階で、電源コンセントの数を多く配置する事と、何台のパソコンを用いダイナミクスを運用するかを含めLANの設計を十二分にして置くことをおすすめいたします。

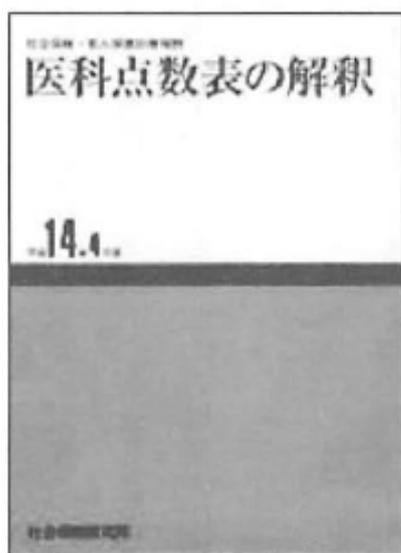
院長も最低限の医療事務知識は要る

電子カルテの設定と同時に開業一ヶ月半前のこの時期にしておくべき事がもう一つあります。それは、ある程度の医療事務の勉強です。メーカー製のレセコンを導入するのであれば、受付スタッフがレセコンを操作するだけで、院長は医療事務の知識を要する事はありませんが、電子カルテの場合はそういう訳にはいきません。電子カルテを設定する際に、ある程度の医療知識を必要とします。

「医科点数表の解釈」という一三〇〇ページにもおよぶ保険請求のバイブルとも言える本がありますが、開業前の忙しい時期にこんな大部の本を読む時間は全くありません。また、内容も入院や

手術手技など診療所向けでない部分が多くあります。そこで、保険診療マニュアル的な本が多数ありますので読みやすそうな本を一冊選んで読まれる事をおすすめいたします。私は「診療報酬完全攻略マニュアル・医学通信社」を一読いたしました。約二百ページ程度のボリュームです。軽く目を通すだけで診療報酬算定の大枠はつかめます。必要な所のみ斜め読みで良いと思います。わたしたちは医療事務専門家になる必要はなく、電子カルテ設定に必要な最低限の知識を身につけるのが目的です。

例えば私の所では他施設でCTを撮影して当院で保険請求をするというケースがあります。「医科点数表の解釈」ではE-200とE-203、E-400を算定するとあります。そこで更にE-200のページを開けて調べます。これが正しい方法ですが、煩雑で実務的ではありません。こういう時、診療報酬完全攻略



マニュアルでは、わかりやすい表になっています。撮影部位毎の点数が一覧になっており、どれどれを算定すれば良いか分かりやすく記載されています。これをダイナミクスに当てはめて図のように入力いたします。

また、一ヶ月半前になりますと、開業前の一大イベントである職員採用の時期となります。職員の採用においては、医療事務資格の有無、医療事務経験の有無はさほど重要ではないように思いますが、資格、経験は有るに越した事はないのですが、それよりもダイナミクスを使う上では、パソコンの入力が出来る事の方が重要ではないかと感じております。当院では、採用面接の時にパソコン入力テストを取り入れました。漢字、アルファベット混じりの文章を五分間ほどパソコンへ入力をし

3. コンピューター断層撮影診断料

(1) コンピューター断層撮影診断

E200コンピューター断層撮影 + E203コンピューター断層診断 + E400フィルム (+ E300薬剤 + E401特定保険医療材料 (フィルムを除く))

(2) 非放射性キセノン脳血流動態検査

E201非放射性キセノン脳血流動態検査 + E203コンピューター断層診断 + E400フィルム (+ E300薬剤 + E401特定保険医療材料 (フィルムを除く))

(3) 磁気共鳴コンピューター断層撮影

E202磁気共鳴コンピューター断層診断 + E400フィルム (+ E300薬剤 (フィルムを除く))

	検査・画像					伝票:		チェック		点数	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10
▶ 頭部単純CT撮影								1	・	回	
造影剤使用加算 (半切 (画像記録用)								1	・	回	
オムニパーク30								5	・	枚	1298
コンピューター断								1	・	筒	1442
*								1	・		450

ていただきます。開業前のこの時期に、受付スタッフにパソコンの電源の入れ方、漢字変換の方法から研修を始める訳にはいきませんので、面接にパソコン入力を導入されてみては如何でしょうか。

パソコン入力が出来れば、目立ソフテックから有償で派遣される三時間のインストラクション講習を受けるだけで、ダイナミクスの基本機能は使えるようになります。

開業一ヶ月前

一ヶ月前に職員の採用と並行して行うことに、自院での採用薬、検査一覧等の作成があります。ダイナミクスへの採用薬のマスター登録、処方セット、注射セット、検査セットの作成は欠かせません。頑張っても地道な作業ですので一週間はかかります。ダイナミクスのマニュアルを読み、派遣されるインストラクターの方の説明を聞けば、受付業務、診察、処方入力、レセプト作成まで出来るようになりますが、それだけでは、診療を

入力試験の例文

C型肝炎の治療の目標はウイルスの排除(sustained virological response: SVR)である。インターフェロン(IFN)治療終了後6ヶ月に、もっとも高感度な検出系を用いて検査をする。この時期に血液中 HCV-RNA が検出されないことが目標となる。

持続的なウイルスの排除は肝繊維化の改善、肝細胞癌の発生抑制(危険率はウイルス排除例では未治療の5分の1に低下する)、肝不全と関連する。

スムーズに行う事はできません。

検査セットの準備なしで使い始めるとなると、例えば胸部×線写真を撮影する場合、胸部レントゲン撮影手技及び使用フィルムをひとつひとつ選択して入力する必要があります。しかしセットを作っておけばそのセットボタンを押すだけで入力が終了します。さらに血液検査をセットなしで行うとなると、末梢血一般検査、AST、ALT、血糖、CRPなどの項目を一個ずつ選んで入力する事になります。診察の場で、個別に選ぶ時間はありませぬので、頻用する血液セットは作成して、あらかじめダイナミクスに登録して運用する必要があります。このセット作成というのは前記しましたが、地道な作業で一個ずつ作成するしかありません。毎日二時間、三時間と夜中に作業しました。一週間くらいかかりましたけれども、これさえ終えれば無事開業当日を迎えることができます。薬の登録は一般的な頻用薬はすでにダイナミクスに登録されていますが、診療科目毎の特殊な薬はダイナミクスには入っておりませぬので、新規に登録が必要です。

開業二週間前

次頁の表が私のクリニックでの開業前研修のスケジュールです。開院前二週間のスケジュールを

看護師研修予定

	9:00	10:00	11:00	0:00	1:00	2:00	3:00	4:00	5:00
9/16 火					スタッフ 初出勤	ミーティング			
9/17 水					レセコン研修会				
9/18 木					エコー ECG	内視鏡	消毒薬		
9/19 金					コピーレシ	検体検査	クレーブ 監視モニタ		
9/20 土									
9/21 日									
9/22 月									
9/23 火									
9/24 水		窓口会計	システム	マナービデオ 昼食会	リハーサル	ミーティング			
9/25 木	自現器	X線		マナービデオ 昼食会	リハーサル	ミーティング			
9/26 金	院内整理			マナービデオ 昼食会	リハーサル	ミーティング			
9/27 土									
9/28 日	(内覧会)								
9/29 月					院内整理				
9/30 火					院内整理				
10/1 水	開院								

作りました。初日のスタッフ顔合わせの後に、私に分かる範囲でダイナミクスの使い方の説明を三十分間ほどいたしました。翌日にダイナミクスの正規契約を行うと付いてくる三時間のインストラクター講習がありますので、それをみんなで受けます（現在は有償のオプションとなっております）。三時間インストラクター講習を受けた後に一時間、ダイナミクスを自由に入力し練習。研修三日目には受付スタッフを中心にダイナミクスをさわって二時間研修。三日間で、合計六時間半の研修時間です。開業当日を迎えられる程度のレベルに全員達しました。

レセコンを導入した場合、レセコン業者からの派遣インストラクターが午前、午後に来て、二週間の研修、計六十時間の研修を標準としているそうです。ダイナミクスの場合には約十分の一の時間である、六時間半の研修で十分かと思えます。この段階で電子カルテの操作はある程度出来るようになります。一点、大事な事は実際の運用のリハーサルをしておくことです。友人にお願いして開業前に模擬患者さんを演じていただき、本物の保険証を見て入力というのを開業直前に経験すれば万全の体制で開業当日を迎える事ができます。そして模擬診療研修が終わるとあつという間に当日になります。

そして開業当日

さて開業当日となりました。全員が初診の患者さんです。私は患者さんの保険情報入力で受付業務が混み合ってしまうのではないかと心配しておりました。そして私の方は悠々と診療できると考えていました。ところが状況は全く逆で、受付事務スタッフは私が予想した以上にダイナミクスに習熟しておりました。老人医療、母子保健、乳幼児医療などの福祉関連の公費も事前の目立ソフトウェアからのインストラクター講習で経験済みでしたので、正確に電子カルテに入力できておりました。

一方、電子カルテ入力に手間取ったのは私自身でした。セット検査はあらかじめ作成しておりましたが、検査入力はスムーズでしたが、処方の入力に手間取ってしまいました。処方セットの作成が不十分だったためです。たとえばロキソニンひとつ処方するのに「ロキソニン」を選択し錠数を「3」と入力し「一日二回食後」を選択し「4」日分と全部入力しなければいけなかったためです。これはセットを十分作っておけば簡単に対応できます。開業したその晩には頻用処方セットのパターンを追加で急遽作成し、翌日からは私の所で業務停滞することもなくスムーズに診療が行えるようになりました。そして最初に書いたように私も「ダイナミクスを選んで正解」と胸を張って言えました。

最後に繰り返しになりますが、強調したい点は次の四点です ①職員の採用にあたってはキーボード入力を重視すること ②開業前、電子カルテ入力の練習は六時間以上かけること ③医師自身が保険医療についての最低限の知識をもつこと ④頻用処方、検査セットの作成をすること—これらの準備を行えば無事、開業当日を迎え、その晩は枕を高くして寝ることができます。

私の経験を参考にしていただければ幸いです。